

(様式例第11)

地独小病第78号
令和2年8月24日

都道府県知事 殿

住 所 栃木県小山市大字神鳥谷2251番地1
申請者 地方独立行政法人 新小山市民病院
氏 名 理事長 島 田 和 幸



新小山市民病院の地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒323-0827 栃木県小山市大字神鳥谷2251番地1
氏名	地方独立行政法人新小山市民病院

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

新小山市民病院

3 所在の場所

〒323-0827 栃木県小山市大字神鳥谷2251番地1 電話 (0285) 36-0200

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	床	床	床	300床	300床



5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 連続心拍出量測定装置・生体情報ベッドサイドモニタ・人工呼吸器・心電計・超音波画像診断装置・血圧監視装置・輸液ポンプ・低圧持続吸引器 等 病床数 12床
化学検査室	(主な設備) ミニチューブシーラー・ユニット恒温槽・自動赤血球沈降速度測定器・テーブルトップ遠心機・全自動血球測定装置・血液ガス分析装置・全自動輸血検査測定装置・全自動尿分析装置・全自動尿中有形成分分析装置・全自動生化学分析装置・全自動血液凝固測定装置・自動採血管準備装置・グリコヘモグロビン分析装置・全自動血糖分析装置・救急カート・重量式減圧採血器・便潜血測定装置・卓上遠心機・プレートミキサー・全自動免疫測定装置・全自動血球洗浄遠心機 等
細菌検査室	(主な設備) 全自動血液培養検査装置・プログラム高温低音槽・リアルタイム濁度測定装置増幅ユニット・バイオハザード対策用キャビネット・研究用冷蔵庫・トノキシメーター・リアルタイム濁度測定装置 等
病理検査室	(主な設備) 臓器保存用真空包装機・パラフィンブロック冷却装置・凍結ブロック作成装置・ホルムアルデヒド対策機器・パラフィン伸展機・凍結組織切片作成装置・自動免疫染色装置・自動細胞収集装置・密閉式自動固定包埋装置・局所排気装置・自動染色装置・ディスペンシング・コンソール 自動制御恒温装置 スライドプリンター・カセットプリンター・ラベルプリンター・薬用冷蔵シューケース・超低音フリーザー 等
病理解剖室	(主な設備) 解剖台・強制排気付切出台兼流し台・臓器撮影装置
研究室	(主な設備) 電子カルテ用PC2台、インターネット接続環境
講義室	室数 1 室 収容定員 108人
図書室	数 1 室 蔵所数 3200 冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積3.90 m ² [共用室の場合] —

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。



(様式例第12) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院紹介率	79.9%	算定期間	2019年4月1日～2020年3月31日
地域医療支援病院逆紹介率	77.7%		
算出根拠	A：紹介患者の数		12,945人
	B：初診患者の数		16,200人
	C：逆紹介患者の数		12,580人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(様式例第13) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職 種	氏 名	勤務の態様	勤務時間	備 考	
1	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週11.75時間	
2	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週7.75時間	
3	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週7.75時間	
4	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週7.75時間	
5	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週7.75時間	
7	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	
8	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	救急科部長
9	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	他47名
10	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週30時間	
11	医 師		常勤 非常勤	専従 非専従	週31時間	
12	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	他41名
13	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	週33.75時間	
14	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	週35時間	
15	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	週13.75時間	
16	薬剤師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	他14名
17	薬剤師		常勤 非常勤	専従 非専従	週33.75時間	
18	診療放射線 技師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	他11名
19	臨床検査 技師		常勤 非常勤	専従 非専従	週38.75時間	他16名

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	15床
専用病床	20床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救急科 (初療室、観察室)	180.48㎡	(主な設備) 無影灯・イメージセンサーレッチャー・シリンジポンプ・ 除細動器・輸液ポンプ・内視鏡システム・ 心電計・真空吸引器・ 生体情報ベッドサイドモニタ・ 超音波画像診断装置・レスピレーター	可
手術室 (OP1～5、 リハビリルーム)	253.04㎡	(主な設備) 手術台・無影灯・生体情報ベッドサイドモニタ・ 人工呼吸器・麻酔器・腹腔鏡システム・ 超音波画像診断装置・血液ガス分析装置	可
放射線科 (CT・一般撮影室、CT 室、MRI室、マンモ・骨密 度検査室、X-TV室、一 般撮影室(2室)、血管 撮影室、心臓カテーテ ル室)	337.25㎡	(主な設備) MRI・CT撮影装置・X線TV撮影装置・ 乳房撮影装置・骨密度測定装置・ 一般撮影装置・FPDシステム・血管撮影装置・ 大動脈バルーンポンプシステム・ 血管内超音波診療装置・除細動器・ポリグラフ・ 血圧監視装置	可
検体検査室	127.27㎡	(主な設備) 輸血検査装置・分光光度計・ 全自動血球分析装置・生化学自動分析装置・ 純水装置・実験台・自動免疫測定装置・ 血液凝固分析装置・血液ガス分析装置・ 遠心機・HbA1c測定装置	可
ICU・HCU	179.32㎡	(主な設備) 連続心拍出量測定装置・ 生体情報ベッドサイドモニタ・人工呼吸器・ 心電計・超音波画像診断装置・ 血圧監視装置・輸液ポンプ・低圧持続吸引器	可
SCU	41.19㎡	(主な設備) 生体情報ベッドサイドモニタ・ 人工呼吸器・ 電動リモートコントロールベッド	可

4 備考

救急告示病院 ((平成30)2018年7月31日 栃木県告示第404号)

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令(昭和39年厚生省令第8号)に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	4,210人 (2,193)
上記以外の救急患者の数	4,737人 (1,016人)
合計	8,947人 (3,209人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(様式例第14) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用（共同利用）のための体制が整備されていることを証する書類

1 共同利用の実績

- ①コンピュータ断層撮影（CT）：518件
- ②磁気共鳴コンピュータ断層撮影（MRI）：453件
- ③X線骨密度測定：0件
- ④内視鏡検査（胃カメラ）：3件
- ⑤超音波検査（腹部エコー・心エコー）：12件
 - ・共同利用を行った医療機関：56件
 - ・共同利用を行った医療機関延べ数：1011件
 - ・うち開設者と直接関係のない医療機関延べ数：1011件
 - ・共同利用に係る病床利用率：0%

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

- ①コンピュータ断層撮影（CT）
- ②磁気共鳴コンピュータ断層撮影（MRI）
- ③X線骨密度測定
- ④内視鏡検査（胃カメラ）
- ⑤超音波検査（腹部エコー 心エコー）

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

- ア 共同利用に関する規定の有無 有 無
- イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名：金澤正治
職 種：事務（医療連携室長）

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 別紙 「地域連携協力施設（共同利用登録医療機関一覧）参照 計168医療機関 </div>				なし

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	0床
--------------	----

新小山市民病院共同利用実施要綱

策定日：平成27年5月21日

改定日：令和2年8月11日

1. (目的)

この要綱は新小山市民病院（以下「病院」という）に共同利用医療機器を設置し、もって病院と地域連携登録医療機関（以下「登録医」という）が相互協力し、地域医療に貢献することを目的とする。

2. (定義)

(1) 「共同利用医療機器」とは、以下の医療機器とする。

- 1.内視鏡装置
- 2.超音波検査装置
- 3.磁気共鳴コンピュータ断層撮影装置(MRI)
- 4.コンピュータ断層撮影(CT)
- 5.X線骨密度測定

3. (登録医療機関)

共同利用機器を利用しようとする医療機関は承諾書に所定の事項を記入した上、提出しなければならない。

4. (検査)

- (1) 登録医が患者の検査を希望するときには、内視鏡検査・超音波検査については医療連携室、磁気共鳴コンピュータ断層撮影(MRI)・コンピュータ断層撮影(CT)・X線骨密度測定については放射線科に連絡するものとする。連絡を受けた医療連携室の担当者または放射線科の担当者は予約状況を確認の上、検査予約を入れ、当該登録医に伝える。
- (2) 検査予約の連絡を受けた登録医は患者に共同利用についての説明、了解を得たのち、診療情報提供書を持参させるものとする。

5 (症例検討会)

共同利用の関係者は、必要の都度症例検討会を開催し、研鑽に努めるものとする。

6. (その他)

- (1) この要綱に定めるもののほか共同利用医療機器の取扱いについて必要な事項は院長のもと関係者を招集し協議し定めるものとする。

地域連携協力施設(共同利用登録医療機関)一覧

No.	医療機関名	院長名	住所	主な診療科	経営上の関係
1	青い鳥こどもクリニック	松下 卓	小山市城東2-19-2	小児科、アレルギー科	無
2	青木医院	青木 成史	小山市網戸1850	内科、消化器内科、内視鏡内科、外科、肛門外科	無
3	あかざわクリニック	赤澤 訓	小山市土塔234-47	ペインクリニック内科、漢方内科	無
4	晁クリニック	稲葉 俊三	小山市土塔62	消化器内科、内科、外科、小児科、肛門外科、乳腺外科	無
5	浅井こどもクリニック	浅井 秀美	小山市西城南4-4-4	小児科、アレルギー科	無
6	朝日病院	朝日 公彦	小山市喜沢660	精神科、心療内科、内科	無
7	あらい内科クリニック	新井 高正	小山市城北4-33-1	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、人間ドック	無
8	あやま医院	荒山 由香	小山市大行寺1069-1	整形外科、内科、リハビリテーション科、小外科	無
9	安西・古谷クリニック	安西 信行	小山市中央町2-8-24	循環器科、内科、皮膚科	無
10	五十嵐医院	五十嵐 丈人	小山市本郷町2-6-12	耳鼻咽喉科	無
11	いしい整形外科	石井 隆夫	小山市犬塚1-21-8	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	無
12	樹レディースクリニック	佐山 雅昭	小山市神鳥谷5-18-15	産婦人科	無
13	いぬづか眼科	和泉田 真作	小山市犬塚8-10-20	眼科	無
14	犬塚クリニック	小園江 和之	小山市犬塚5-14-10	内科、漢方内科、呼吸器内科	無
15	おおきこどもクリニック	大木 文弘	小山市美しが丘3-35-3	小児科、アレルギー科	無
16	大林メンタルクリニック	将田 真弓	小山市城山町2-7-25高岩ビル1F	心療内科、精神科	無
17	岡整形外科	岡 亨	小山市駅東通り1-47-18	整形外科、リハビリテーション科	無
18	おぐら内科・腎クリニック	小倉 学	小山市雨ヶ谷町24	内科、腎臓内科(人工透析)、糖尿病内科、循環器内科	無
19	おだ内科クリニック	小田 和彦	小山市羽川524-4	循環器内科、内科	無
20	小野寺クリニック	小野寺 文雄	小山市中久喜1615-3	麻酔科、内科、整形外科	無
21	小山イーストクリニック	大橋 博	小山市駅東通り1-32-1	内科、糖尿病内科、甲状腺内科、循環器科、小児科、放射線科	無
22	小山クリニック	板井 紀郎	小山市栗宮1970-10	内科、人工透析	無
23	小山厚生病院	角田 尚久	小山市八幡町2-10-6	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、皮膚泌尿器科	無
24	おやま城北クリニック	小坂 由道	小山市喜沢1475-328	整形外科、内科、皮膚科、外科	無
25	小山すざの木クリニック	朝倉 伸司	小山市中久喜1113-1	内科、消化器科、循環器科、小児科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
26	小山整形外科内科	小黒 賢二	小山市雨ヶ谷753	整形外科、内科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
27	小山整形外科内科クリニック	鮫島 康仁	小山市雨ヶ谷824-18	整形外科、内科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
28	小山中央医院	山中 桓夫	小山市中央町2-1-19	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科	無
29	小山皮膚科	藤平 尚弘	小山市城東1-2-31	皮膚科	無
30	小山福澤眼科	福澤 裕一	小山市東城南4-13	眼科	無
31	小山メンタルクリニック	尾崎 尚子	小山市駅東通り2-23-9	精神科、心療内科	無
32	柏木耳鼻咽喉科医院	柏木 博道	小山市駅東通り2-18-18	耳鼻咽喉科、気管食道科	無
33	加藤クリニック	加藤 謙吉	小山市城東6-6-7	内科	無
34	苅部医院	苅部 知郎	小山市南飯田317-8	内科、外科、整形外科、泌尿器科	無
35	苅部小山南クリニック	柴 徳郎	小山市塚崎1503	胃腸科、内科、外科、肛門科	無
36	川崎内科医院	川崎 建市	小山市東城南2-11-2	循環器科	無
37	川田耳鼻咽喉科クリニック	川田 和己	小山市東城南4-6-4	耳鼻咽喉科	無
38	かわなご女性クリニック	川中子 信正	小山市駅東通り2-6-10	産婦人科、内科	無
39	川村内科医院	川村 肇	小山市駅南町5-16-8	内科、小児科、リウマチ科、アレルギー科	無
40	神野医院	横山 愛子	小山市下河原田694	内科、小児科、皮膚科	無
41	北村クリニック	北村 慶一	小山市城東5-1-17	外科、内科、消化器内科、消化器外科、肛門外科、整形外科	無
42	黒須整形外科医院	黒須 治一	小山市乙女2-12-8	整形外科、リハビリテーション科	無

No.	医療機関名	院長名	住所	主な診療科	経営上の関係
43	こう耳鼻科クリニック	井上 耕	小山市雨ヶ谷738-1	耳鼻咽喉科	無
44	光南健診クリニック	黒田 磨美子	小山市善栄1475あやまゆうえんハイツ内アークコート3階2F	健康診断、人間ドック	無
45	光南病院	金子 公一	小山市乙女795	外科、内科、呼吸器科、消化器科、泌尿器科、整形外科、皮膚科、小児科、産婦人科、人工透析、人間ドック	無
46	こもれび心の診療所	羅田 享	小山市中央町3-7-1ロブレ7F	精神科、心療内科	無
47	古谷野皮膚科泌尿器科	古谷野 誠	小山市若木町1-15-32	皮膚科、泌尿器科	無
48	近藤クリニック	近藤 類	小山市天神町1-9-22	内科、神経内科、放射線科、精神科、心療内科	無
49	斎藤眼科医院	斎藤 信一郎	小山市駅東通り2-28-17	眼科	無
50	さくらのクリニック	石田 暁宏	小山市卒島244-1	内科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科	無
51	サンアラワークリニック	福岡 偲	小山市出井1935-1	内科、小児科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、精神科	無
52	篠原クリニック	篠原 秀樹	小山市花垣町1-2-19	外科、呼吸器内科、整形外科、消化器内科	無
53	城東メンタルクリニック	川田 昌弥	小山市城東6-3-12	精神科、心療内科	無
54	城南クリニック	大和田 敏雄	小山市西城南2-18-7	内科、胃腸内科、外科、整形外科、大腸・肛門外科	無
55	城南眼科クリニック	蘇 浩訓	小山市雨ヶ谷113-1	眼科	無
56	杉村病院	杉村 栄一	小山市城山町2-7-18	外科、内科、小児科、消化器内科、泌尿器科、循環器内科、皮膚科、整形外科、リハビリテーション科、産科外産、女性内科	無
57	鈴木眼科医院	鈴木 光	小山市中央町2-1-1	眼科	無
58	すずき整形外科	鈴木 愉	小山市喜沢438-1	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	無
59	須田医院	須田 誠	小山市間々田1489	内科、外科、胃腸科	無
60	関医院	篠田 裕美	小山市中久喜5-2-1	内科、小児科、循環器科	無
61	せき内科胃腸科クリニック	関 優	小山市喜沢667-153	内科、胃腸科、小児科	無
62	関根整形外科医院	関根 修一	小山市駅南町1-9-15	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	無
63	ソフィアホームケアクリニック	藤原 隆一	小山市土塔175-24	内科、外科	無
64	高岩内科医院	高岩 良明	小山市駅東通り2-38-13	内科、循環器科	無
65	田村整形外科	田村 興太郎	小山市若木町2-10-20	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	無
66	ちばクリニック	千葉 英男	小山市東城南5-6-10	消化器科、胃腸科、内科、外科、肛門科	無
67	塚本耳鼻咽喉科医院	塚本 嘉一	小山市中央町3-1-25	耳鼻咽喉科	無
68	土谷医院	土谷 博之	小山市城山町2-4-26	内科、小児科	無
69	つちやカルテリオクリニック	土谷 範昭	小山市東間々田2-103-3	内科、循環器内科、呼吸器内科、小児科	無
70	鶴見整形外科医院	鶴見 信之	小山市本郷町2-1-12	整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
71	トータルクリニック寺門医院	寺門 達之	小山市駅南町1-17-18	内科、小児科、胃腸科、肛門科、外科、人間ドック	無
72	所内科胃腸科クリニック	所 純二	小山市間々田1722	内科、消化器科、小児科	無
73	豊嶋耳鼻咽喉科クリニック	豊嶋 勝	小山市神鳥谷1085-4	耳鼻咽喉科、気管食道科	無
74	戸野塚内科医院	戸野塚 博	小山市下石塚471	内科	無
75	とみやまクリニック	富山 宗徳	小山市城北6-26-5	内科、皮膚科、アレルギー科	無
76	友井内科クリニック	塚田 錦治	小山市駅東通り1-3-3森井メディカルビル3-4F	内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、神経内科、アレルギー科	無
77	友井皮膚科クリニック	塚田 篤子	小山市城山町3-2-17	皮膚科	無
78	永山医院	永山 巖	小山市天神町2-12-22	内科、小児科	無
79	沼部医院	沼部 治夫	小山市城東6-14-9	内科、整形外科、リウマチ科	無
80	能美内科外科クリニック	能美 明夫	小山市間々田26-3	内科、消化器内科、外科、肛門科、泌尿器科、皮膚科、小児科	無
81	野村消化器内科クリニック	野村 泰宏	小山市乙女2-3-15	消化器科、内科、外科、人間ドック	無
82	花垣内科医院	土谷 昭	小山市花垣町1-7-6	内科、循環器科、呼吸器科	無
83	ハンディクリニック	坂口 敏夫	小山市西城南6-3-9	内科、外科、在宅医療	無
84	神鳥谷クリニック	原田 一哉	小山市神鳥谷1-19-1	泌尿器科、内科、小児科、皮膚科、整形外科、リハビリテーション科	無
85	福田医院	福田 一郎	小山市宮本町2-4-6	内科、消化器科、小児科	無
86	ふくだクリニック	福田 正巳	小山市西城南4-12-33	内科、小児科、胃腸科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、皮膚科	無

No.	医療機関名	院長名	住所	主な診療科	経営上の関係
87	ふくだ皮膚科クリニック	福田 博美	小山市東岡々田2-36-2	皮膚科	無
88	富士見荘診療所	森野 文雄	小山市上石塚15	内科、外科	無
89	藤原クリニック	藤原 幸雄	小山市雨ヶ谷新田71-1	内科、循環器科、小児科、呼吸器科、アレルギー科	無
90	扶桑医院	森野 文雄	小山市扶桑1-2-1	内科、外科、小児科、消化器科、整形外科、放射線科	無
91	船内内科外科医院	船田 隆	小山市松沼578	内科、外科、小児科	無
92	星内科医院	星 朗	小山市喜沢399-4	内科、呼吸器科、小児科、アレルギー科	無
93	星野胃腸科外科医院	星野 敦	小山市栗宮745-1	内科、胃腸科、消化器科、小児科、外科、肛門科、放射線科、乳腺外科	無
94	星野病院	星野 裕	小山市栗宮1-7-8	内科、胃腸科、外科、肛門科、泌尿器科、放射線科	無
95	松岡クリニック	松岡 淳一	小山市東城南1-3-32	精神科、心療内科	無
96	水越内科クリニック	水越 和夫	小山市雨ヶ谷506-1	呼吸器科、循環器科、消化器科、内科、リハビリテーション科	無
97	三田整形外科	三田 雄樹	小山市間々田18-1	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科	無
98	みなみこどもクリニック	南 孝臣	小山市城東6-10-1	小児科、アレルギー科、小児循環器科	無
99	みなみ整形外科	小倉 隆宏	小山市西城南9-16-7	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、内科	無
100	南橋木病院	北村 諭	小山市北飯田74-2	内科、小児科、消化器科、循環器科	無
101	森岡内科小児科医院	森岡 博昭	小山市乙女1-28-1	眼科	無
102	もりや眼科	森谷 充雄	小山市東通11-15-12	眼科	無
103	矢尾板クリニック	矢尾板 勤	小山市神鳥谷1799-1	内科、消化器科、外科、整形外科、リハビリテーション科、アレルギー科	無
104	安田耳鼻咽喉科クリニック	安田 豊稔	小山市乙女2-7-2	耳鼻咽喉科、アレルギー科	無
105	やまなかレディースクリニック	山中 誠二	小山市若木町2-11-20	産科、婦人科	無
106	山室クリニック	山室 雅男	小山市喜沢647	麻酔科、整形外科、内科	無
107	あんずの森クリニック	富山 剛	下野市仁良川1518-1	内科、消化器科	無
108	石橋総合病院	三室 淳	下野市下古山1-15-4	内科、神経内科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、眼科、小児科、産科、消化器科、アレルギー科、放射線科、皮膚科、小児科、産科、整形外科	無
109	海老原医院	海老原 聡	下野市小金井5-26-10	内科、胃腸科、小児科、外科、皮膚科、放射線科	無
110	大栗内科	大栗 薫	下野市石橋811-1	循環器科、胃腸科、呼吸器科	無
111	岡田医院	岡田 正資	下野市小金井2976	内科、小児科、循環器科	無
112	おかべこどもクリニック	岡部 一郎	下野市緑5-17-12	小児科	無
113	おちあい眼科	茅野 万理	下野市下古山88-1	眼科	無
114	小山富士見台病院	小林 勝司	下野市柴1123	精神科、神経科、内科	無
115	回生眼科	山口 康三	下野市区大前4-8-1	眼科	無
116	角田内科医院	角田 坦	下野市石橋549	内科、循環器科、消化器科、呼吸器科	無
117	柏木ひふ科	柏木 弓	下野市下古山1-1-10	皮膚科	無
118	木村クリニック	木村 孔三	下野市砥園1-7-7	産婦人科、内科、小児科	無
119	グリムこどもアレルギーのクリニック	福田 典正	下野市下古山2-6-17	小児科、アレルギー科、内科	無
120	グリーンタウンクリニック	井上 真	下野市砥園2-3-2	内科、腎臓内科、循環器内科、内分泌、代謝内科、人工透析内科	無
121	小金井中央病院	田中 昌宏	下野市小金井2-4-3	消化器科、内科、小児科、アレルギー科、皮膚科	無
122	国分寺さくらクリニック	村田 光延	下野市小金井777-1	耳鼻咽喉科、リウマチ科、アレルギー科、内科、循環器科	無
123	こうたけ腎クリニック	小藤田 篤	下野市東5-13-16	内科、外科	無
124	佐藤内科	佐藤 慎	下野市石橋839-14	内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科	無
125	自治医大ステーション・ブレインクリニック	池口 邦彦	下野市区大前3-2-2 3階	神経内科	無
126	耳鼻咽喉科ふじもとクリニック	藤本 泰幸	下野市砥園1-6-10	耳鼻咽喉科	無
127	島田クリニック	島田 健太郎	下野市石橋238-1	内科、消化器科、循環器科、小児科、整形外科	無
128	しもつけクリニック	井戸 健一	下野市薬師寺3171-4	内科、消化器内科	無
129	しもつけ痛みのクリニック	齋藤 和彦	下野市柴871-7	麻酔科(ペインクリニック)、内科	無
130	すずき内科・循環器科	鈴木 高明	下野市薬師寺2489-10	内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、アレルギー科、放射線科	無

No.	医療機関名	院長名	住所	主な診療科	軽症上の別科
131	たかはし眼科クリニック	高橋 康子	下野市小金井1-34-6	眼科	無
132	ちば整形外科クリニック	千葉 昭彦	下野市烏ヶ森1-4	整形外科、リウマチ、リハビリテーション科	無
133	中央クリニック	本山 光博	下野市薬師寺3154-2	産科、婦人科、泌尿器科、内科、麻酔科	無
134	つるかめ診療所	鶴岡 優子	下野市緑3-18-16	内科	無
135	都丸整形外科	都丸 高志	下野市文教1-11-16	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	無
136	新島内科クリニック	新島 健司	下野市文教3-10-4	内科、神経内科	無
137	にじいろこども診療所	佐間田 一則	下野市小金井4-1-1	小児科、アレルギー科	無
138	ふじたクリニック	藤田 昌紀	下野市大光寺1丁目11-10	内科、外科、消化器内科(内視鏡)、大腸・肛門外科、小児科	無
139	藤原整形外科	藤原 淳	下野市下古山3378-1	整形外科	無
140	南河内診療所	荒井 博義	下野市薬師寺2472-15	内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、神経内科、皮膚科、リハビリテーション科	無
141	宮澤クリニック	宮澤 功	下野市柴291-2	内科、小児科、皮膚科	無
142	薬師寺運動器クリニック	伊澤 一彦	下野市祇園3221-3	整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
143	山本整形外科医院	山本 勝	下野市駅東6-1-22	整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
144	山本皮膚科	山本 律子	下野市駅東6-1-22	皮膚科	無
145	若草クリニック	福田 修一	下野市緑2-3291-1	内科、糖尿病内科、内分泌内科、脂質代謝内科	無
146	和母マタニティクリニック	和田 智明	下野市小金井1-30-6	産科、婦人科	無
147	石川医院	石川 信	河内郡上三川町大山467-5	内科、小児科	無
148	うえのクリニック	上野 修市	河内郡上三川町上蒲生2312-3	内科、循環器内科、呼吸器内科、アレルギー科	無
149	川崎内科小児科クリニック	川崎 隆	河内郡上三川町上三川2863-1	内科、小児科、腫瘍・消化器内科、アレルギー科、心療内科	無
150	小口内科小児科医院	小口 涉	河内郡上三川町上三川3358	内科、小児科、呼吸器科、消化器科、循環器科、皮膚科、放射線科	無
151	しらす耳鼻咽喉科クリニック	今吉 正一郎	河内郡上三川町しらす2-25-7	耳鼻咽喉科、アレルギー科、小児科	無
152	新上三川病院	大上 仁志	河内郡上三川町上三川2360	整形外科、内科、リハビリテーション科、麻酔科	無
153	せんば医院	仙波 真吾	河内郡上三川町しらす1-19-8	内科、胃腸科、外科、肛門科	無
154	竹澤内科医院	竹澤 久武	河内郡上三川町しらす1-41-17	内科、消化器科	無
155	藤沼医院	藤沼 秀光	河内郡上三川町梁347	内科、循環器科、呼吸器科、心療内科	無
156	本郷台医院	大出 弘孝	河内郡上三川町西汁1706-1	内科、麻酔科、リハビリテーション科	無
157	やの小児科医院	谷野 定之	河内郡上三川町上三川3446-3	小児科、内科	無
158	山崎医院	山崎 竜弥	河内郡上三川町上蒲生2353-3	内科、小児科、放射線科	無
159	やまだ脳神経外科クリニック	山田 直司	河内郡上三川町西汁1701-47	脳神経外科、内科、外科、リハビリテーション科	無
160	いなば内科クリニック	稲葉 利敬	下都賀郡野木町丸林583-3	糖尿病内科、内分泌内科、内科、小児科	無
161	岩崎医院	岩崎 裕子	下都賀郡野木町佐川野1806-1	内科、小児科、呼吸器科	無
162	菊池クリニック	菊池 宏典	下都賀郡野木町野渡245-2	内科、小児科、アレルギー科、心療内科、漢方内科	無
163	木村医院	木村 徹	下都賀郡野木町野渡2797-3	内科、循環器内科、呼吸器内科、アレルギー科	無
164	さくら診療所	遠藤 秀樹	下都賀郡野木町野渡1097	精神科、心療内科	無
165	鹿野クリニック	鹿野 耕太	下都賀郡野木町丸林421-9	胃腸科、内科、外科、肛門科、小児科	無
166	寺内整形外科	寺内 由行	下都賀郡野木町友沼6507-1	整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、リウマチ科	無
167	野木病院	麦原 匡史	下都賀郡野木町友沼5320-2	内科、神経内科、小児科、消化器科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、泌尿器科	無
168	リハビリテーションの花の舎病院	近藤 智善	下都賀郡野木町南赤塚1196-1	リハビリテーション科、神経内科、内科	無

(様式例第15) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙 「令和元年度 地域の医療従事者への研修会実施報告」 参照

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	33回
(2) (1) の合計研修者数	1,032人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

ア 研修プログラムの有無 有・無

イ 研修委員会設置の有無 有・無

ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

別紙
「令和元年度研修指導者一覧」 参照

地域の医療従事者への研修会実施報告(令和元年度)

実施日	テーマ	演題名	出席者		
			院外	院内	合計
1	2019.4.2	第29回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	28 医師	8 医師7 看護師1	36
2	2019.5.16	第19回 地域完結型 医療・連携の会 会場:新小山市民病院	13 医師	43 医師16 看護師24 その他3	56
3	2019.5.16	CKD・透析医療の未来を 考えるカンファレンス 会場:宇都宮グランドホテル	12 医師	1 医師	13
4	2019.5.16	薬師寺 Brain Forum 会場 自治医大地域情報研究センター	16 医師	1 医師	17
5	2019.5.29	小山地区吸入指導連携の会 会場:小山グランドホテル	36 医師27 その他9	2 医師1 薬剤師1	38
6	2019.6.4	第30回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	27 医師	20 医師10 看護師3 その他7	47
7	2019.6.17	小山地区脂質異常症Forum 会場:小山グランドホテル	39 医師28 その他11	3 医師2	42
8	2019.6.25	藤岡多野医師会学術講演会 会場:藤岡多野医師会館	46 医師45 その他11	1 医師	47
9	2019.6.29	第14回 栃木総合診療研究会 会場:ホテルマイステイズ宇都宮	15 医師	2 医師	17
10	2019.7.16	エーザイMR実践研修 会場:小山市立生涯学習センター	5 医師	1 医師	6
11	2019.7.18	第20回 地域完結型 医療・連携の会 会場:新小山市民病院	18 医師	35 医師14 看護師18 その他3	53
12	2019.7.18	Next Generation Forum 会場:自治医科大学 教育研究棟 3F	21 医師	1 医師	22
13	2019.8.6	第31回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	13 医師	8 医師7 看護師1	21
14	2019.9.19	第21回 地域完結型 医療・連携の会 会場:新小山市民病院	19 医師	33 医師12 看護師15 薬剤師1 その他5	52

実施日	テーマ	演題名	出席者		
			院外	院内	合計
15	2019.10.1	第32回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	22 医師	9 医師7 看護師1 その他1	31
16	2019.10.5	糖尿病教室開催 発表者 糖尿病・代謝内科 岡 聖典	27 医師1 市民26	8 医師1 看護師1 薬剤師1 臨床検査技師2 理学療法士2 管理栄養士1	35
17	2019.10.11	野木町民生委員児童委員協議会 研修会 会場:野木エニスホール 小ホール 発表者 病院長 島田 和幸	140 民生委員43 一般市民97	1	141
18	2019.10.12	Epilepsy Expert Meeting 2019 会場:ソニックシティビル906 会議室 発表者 甲州 希理	台風の為中止		
19	2019.11.1	小山南部エリア 医療連携ミニレクチャー会 会場:野木町総合サポートセンター 「ひまわり館」多目的室	12 医師	1 その他	13
20	2019.11.7	会場:自治医科大学研究棟3F 中教室3 発表者 循環器内科 佐藤 雅史	27 医師	1 医師	28
21	2019.11.8	高血圧重症化予防教室 会場:健康医療介護総合支援センター 予防医学センター長 中野 真宏	37 一般市民28 保健師5 管理栄養士1 事務3	1	38
22	2019.11.19	Heart Meeting ～in OYAMA～ 会場:小山グランドホテル 発表者: 循環器内科 主任部長 大谷 賢一 ◆「当院における虚血性心疾患の治療と慢性期の地域連携」 発表者: 循環器内科 副部長 菊池 達郎	29 医師	3 医師	32
23	2019.11.21	第22回 地域完結型 医療・連携の会 会場:新小山市民病院 ◆ 各領域における紹介患者の症例検討会 ◆ 循環器内科領域における紹介患者の症例報告 発表者 循環器内科第一部長 西村 芳興 ◆ 腎臓内科領域における紹介患者の症例報告 発表者 腎臓内科部長 菅生 太郎 ◆ 外科領域における紹介患者の症例報告 発表者 外科 松宮 美沙希	13 医師	45 医師13 看護師27 その他5	58
24	2019.12.2	前立腺がん学術講演会 会場:宇都宮グランドホテル 発表者 泌尿器科 亀田 智弘	18 医師	2 医師	20
25	2019.12.3	第33回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	31 医師31	11 医師9 看護師1 その他1	42

実施日	テーマ	演題名	出席者		
			院外	院内	合計
26	2020.1.16	第23回 地域完結型 医療・連携の会 会場:新小山市民病院	14 医師	29 医師10 看護師15 その他4	43
27	2020.1.20	循環器 LiVe Seminar 会場:第一三共株式会社 栃木営業所	○虚血性心疾患の治療と抗血小板・抗凝固療法について 発表者 循環器内科副部長 菊池 達郎 ライブ配信の為、人数未確認		
28	2020.1.31	PD Masters in小山 2020 会場:小山グランドホテル	18 医師 その他1	1 医師	19
29	2020.2.4	第34回 ポットラックカンファレンス 会場:新小山市民病院	「症例検討会」 コロナウイルス為中止		
30	2020.2.8	糖尿病教室開催	40 医師1 市民39	8 医師1 看護師1 薬剤師1 臨床検査技師2 理学療法士2 管理栄養士1	48
31	2020.3.2	脳卒中LiVe Symposium 会場:小山グランドホテル	16 医師	1 医師	17
32	2020.3.5	小山市地域医療連携学術勉強会 にて基調講演 会場:小山グランドホテル	○小山市地域医療連携学術勉強会 発表者 副院長 大谷 賢一 コロナウイルス為、延期		
33	2020.3.7	Re: Epilepsy Expert Meeting 2019 会場:TKPカンファレンスセンターホール6A	○小児てんかんについて 発表者 甲州 希理 コロナウイルス為、中止		
			752	280	1032

令和元年度研修指導者一覧

No	氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
1		医師	循環器内科	病院長	46年	教育責任者
2		医師	循環器内科	副院長	26年	
3		医師	循環器内科	第一部長	19年	
4		医師	循環器内科	第二部長	15年	
5		医師	循環器内科	副部長	17年	
6		医師	循環器内科	医員	6年	
7		医師	外科	副院長	29年	
8		医師	外科	第一部長	19年	
9		医師	外科	第二部長	21年	
10		医師	外科	副部長	12年	
11		医師	外科	副部長	10年	
12		医師	外科	副部長	15年	
13		医師	外科	医員	5年	
14		医師	外科	医員	4年	
15		医師	形成外科	部長	41年	
16		医師	形成外科	医員	6年	
17		医師	消化器内科	副院長	31年	
18		医師	消化器内科	副部長	9年	
19		医師	消化器内科	副部長	16年	
20		医師	消化器内科	医員	6年	
21		医師	消化器内科	医員	9年	
22		医師	消化器内科	医員	5年	
23		医師	神経内科	副院長	34年	
24		医師	神経内科	副部長	15年	
25		医師	神経内科	医員	3年	
26		医師	神経内科	医員	4年	
27		医師	神経内科	医員	6年	
28		医師	脳血管内治療科	部長	22年	
29		医師	脳神経外科	副院長	27年	
30		医師	脳神経外科	部長	18年	
31		医師	内科・総合診療科	主任部長	35年	
32		医師	内科・総合診療科	第一部長	30年	
33		医師	内科・総合診療科	医員	7年	
34		医師	内科・総合診療科	予防医学センター長	13年	
35		医師	呼吸器内科	部長	29年	
36		医師	呼吸器内科	医員	6年	
37		医師	呼吸器内科	医員	4年	
38		医師	心臓血管外科	部長	29年	
39		医師	心臓血管外科	副部長	13年	
40		医師	糖尿病・代謝内科	部長心得	4年	
41		医師	糖尿病・代謝内科	(嘱)医師	44年	

No	氏名	職種	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
42		医師	腎臓内科	部長	15年	
43		医師	腎臓内科	副部長	16年	
44		医師	腎臓内科	医員	5年	
45		医師	整形外科	副院長	26年	
46		医師	整形外科	部長	23年	
47		医師	整形外科	医員	5年	
48		医師	リハビリテーション科	部長	22年	
49		医師	眼科	部長	21年	
50		医師	小児科	部長	29年	
51		医師	小児科	副部長	15年	
52		医師	小児科	副部長	16年	
53		医師	小児科	医員	7年	
54		医師	小児科	医員	4年	
55		医師	皮膚科	部長	22年	
56		医師	泌尿器科	主任部長	23年	
57		医師	泌尿器科	医員	7年	
58		医師	耳鼻咽喉科	部長心得	7年	
59		医師	麻酔科	部長	33年	
60		医師	麻酔科	医員	9年	
61		医師	放射線科	部長	34年	
62		医師	病理診断科	部長	37年	
63		医師	臨床検査科	(嘱)医師	51年	
64		看護師		看護部長	45年	看護管理
65		看護師		看護副部長	26年	看護管理
66		看護師		看護副部長	30年	認知症看護認定看護師
67		看護師		院内感染対策室長	36年	感染管理認定看護師
68		看護師		看護師長	15年	認知症看護認定看護師
69		看護師		主任	37年	脳卒中リハビリテーション認定看護師
70		看護師		主任	26年	緩和ケア認定看護師
71		看護師		主任	23年	摂食・嚥下障害看護認定看護師
72		看護師		主任	21年	乳がん看護認定看護師
73		看護師		主任	23年	皮膚・排泄ケア認定看護師
74		看護師		主任	28年	集中ケア認定看護師
75		看護師		副主任	22年	がん化学療法認定看護師
76		看護師		看護師	20年	救急看護認定看護師

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
多目的ホール	178.81㎡	(主な設備) 会議用テーブル・イス・スクリーン・ホワイトボード・ワイヤレスマイク・有線マイク・プロジェクタ
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)

(様式例第16) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	事務部長 坂田 普
管理担当者氏名	医事課長 島田 守

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ、及び各部門システムにて保存	紙媒体についてはスキャンの上、電子カルテに保管後、本書は患者毎にファイル保管 (現病院で使用していた紙媒体については最大で6年間保管)
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	医療連携室	
	救急医療の提供の実績	電子カルテ	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	医療連携室	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	医療連携室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

新小山市民病院の診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧手順

策定日：平成27年5月21日

改定日：令和2年8月18日

共同利用登録医療機関が新小山市民病院の診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧をする時は以下の手順に基づいて手続きをすること。

1. 共同利用登録医療機関の医師が診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧をする場合には、医療連携室に閲覧希望の申込をする。なお、閲覧を希望する共同利用登録医療機関の医師は、閲覧を希望する資料のうち診療に関する諸記録等で患者個人の資料を閲覧する場合には、事前に閲覧する患者の同意を得ること。
2. 医療連携室は、申込をした医師が閲覧可能な共同利用登録医療機関の登録医か確認をし、閲覧を希望する諸記録の内容と閲覧の希望日程を確認する。
3. 医療連携室は、医事課に閲覧希望申込の報告をし、医事課と調整の上、閲覧日の日程を決定する。
4. 医療連携室は、決定した閲覧日を、閲覧を希望する登録医に報告をする。
5. 医事課は、閲覧日までに閲覧用の資料を準備する。
6. 閲覧日当日は、医療連携室は閲覧を希望した登録医か確認をし、閲覧場所である医事課に案内する。
7. 閲覧は医事課で行う。
8. 閲覧を終了したら、医事課は閲覧日・閲覧者・閲覧内容を総務課に報告をする。

※閲覧中に追加の閲覧申出があった場合には、当該患者の同意が確認できるものですぐに関覧可能なものに限り、閲覧に応じる。それ以外については、改めて日程を調整し別の日に閲覧をする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録とは以下のとおり。

◇診療に関する諸記録

病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、診療録、検査所見記録、放射線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約

◇病院の管理及び運営に関する諸記録

共同利用の実績、救急医療の提供の実績、地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績、閲覧実績、紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿

(様式例第17) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	事務部長 坂田 普
閲覧担当者氏名	医事課長 島田 守 医療連携室長 金澤 正治
閲覧の求めに応じる場所	医事課
閲覧の手続の概要 1. 登録医は医療連携室を通し、閲覧の申込 2. 医療連携室は、閲覧可能者か確認し、閲覧内容・閲覧希望日を確認。 3. 医療連携室は、医事課と合わせ、日程を調整。 4. 医事課は、閲覧日までに必要書類を準備。 5. 閲覧当日は、閲覧希望者本人かの確認をし、医事課内で希望閲覧資料を閲覧。 6. 閲覧終了後は総務課に閲覧実績を報告。	

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

(様式例第18) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回	
委員会における議論の概要		
<p>実績報告</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績(2) 共同利用の実績(3) 救急医療の実績(4) 研修会の実績(5) その他		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

新小山市民病院地域医療支援病院運営委員会 委員名簿

	所属団体および役職名	氏 名
委員 長	新小山市民病院長	島 田 和 幸
委 員	小山地区医師会長	塚 田 錦 治
委 員	南栃木病院長（小山市近郊地域連携協議会）	北 村 諭
委 員	小山歯科医師会長	手 束 公 一
委 員	小山薬剤師副会長	鶴 養 則 弘
委 員	栃木県県南健康福祉センター所長	大 橋 俊 子
委 員	小山市保健福祉部健康増進課長	室 橋 正 枝
委 員	小山市消防署 消防・救急推進業務係長	菅 原 康 一
委 員	新小山市民病院副院長	宮 脇 貴 裕
委 員	新小山市民病院事務部長	坂 田 普
委 員	新小山市民病院看護部長	折 笠 清 美
事 務 局	新小山市民病院医療連携室・事務部総務課 連携室：野本センター長・金澤室長・渡邊副主任 総務課：阿部課長・石田係長・川島副主任	

第1回 新小山市民病院 地域医療支援病院運営委員会 次第

日時:令和元年5月15日(水)13:30～

場所:新小山市民病院 多目的ホール

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

1) 平成30年度の実績報告

(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績

(2) 共同利用の実績

(3) 救急医療の実績

(4) 研修会の実績

(5) 相談窓口の実績

(6) 在宅復帰率について

2) その他

4. 閉会

次回開催予定

・令和元年8月21日(水)13:30～

平成31年度 第1回新小山市民病院地域支援病院運営委員会
会議要旨

日時 令和元年5月15日(水) 午後1時30分～午後2時30分

場所 新小山市民病院 2階 さくらホール

出席者 委員長 島田 和幸 副委員長 塚田 錦治

委員 北村 諭・手束 公一・鶴養 則弘・山田 雅彦(代) 室橋 正枝・
菅原 康一・宮脇 貴裕・折笠 清美・坂田 普

1. 開 会

2. 挨拶

3. 新任委員より挨拶

4. 議 事

1) 平成30年度の実績報告

(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績

(2) 共同利用の実績

(3) 救急医療の実績

(4) 研修会の実績

(5) 相談窓口の実績について

(6) 在宅復帰率について

(7) 質疑応答

○窓口相談における「運転免許返納」相談について

Q窓口相談の内容「その他」で運転免許返納に関するものとあるが、免許更新の際に警察で高齢者ドライバーに認知症の検査等を実施していると思うが、病院でもそのような検査をしているのだろうか。

A神経内科(もの忘れ外来)を受診した際に患者家族からは返納したいという相談があるが、本人は認めず、激高する患者が多い。

免許証を取るための適性検査を病院で行っているが、それに全く引っかからない方もおり、警察の方でも自損事故を含めた2回以上頻回に事故を起こしている場合には返納を説得するという方法しかないとのことである。

病院の方には法的強制力はなく、患者家族にはまずは警察に相談に行ってもらう等外堀を埋め、患者本人に適性検査を受けさせ、今までの事故での辛い経験を話しながら自主返納を勧めていくようアドバイスをしている。

○救急車適正利用について

・救急搬送について、消防、病院両方に聞きたいのだが、これは救急車は必要なかったのではないかと思う患者はいるだろうか。

・中にはそういう人もいるが、“軽症率”という形で議題になるのだが、従前軽症

率は50%以上であったが、最近50%を下回ってきている。

消防から見れば適した方を搬送していると思うが、未だに頻回利用者と言われている所謂不適切利用者、先日も1日に5回救急車を呼んだ方がおり、現実的に不適切利用者はいる。

- ・市民の方へ救急車利用について啓発活動をしていかなければならないと感じているが、1日に5回利用している人がいる等改めて数字でいただければ、何かの機会に数字を用いて市民に話せるのではないかと考えている。

ぜひそういった資料を作成してほしい。

- ・患者を病院に搬送する前に救急隊が実施しているトリアージがある程度功を奏しており、当院がかかりつけであったり特殊な事情がある軽症者以外はここではない近隣の病院へ搬送していただいている。

- ・この質問には2つの意味があり、新小山市民病院という二次救急に関わる医療資源を大事にしたい、そのためには搬送前の消防でのトリアージが非常に重要であり、もう一つは不必要な方に救急車を利用しないでもらいたい。

救急車が出動する資源も限られており、救急車は必要ないということを伝えていかなければならない。

救急車の出動要請があったら、必ず行かなければならないのだろうか？

- ・全国的にはコールトリアージという、救急要請があった時にトリアージを行っているところがあり、また、現場で様々な事情が起こり不搬送という扱いをすることもある。

実質的には119番→出動→病院というのが一連の流れである。

- ・不搬送というのは？
- ・傷病者ではない方が119番通報し、現場で傷病者自身が救急搬送を断るというケースがあるが、救急隊の判断で不搬送にすることはない。
- ・救急搬送されて病院で入院の必要がないと判断された場合、傷病者はどうやって帰るのだろうか？
- ・消防の救急業務は病院に搬送するところで完結している。
- ・どうやって帰っているのだろうか？
- ・家族かタクシーではないだろうか。
- ・病院にも救急車ではなくタクシーで来れば良いのではないか。
- ・医療従事者や救急隊は救急車は必要ないのではないかと判断する一方で、市民の方は救急車を呼ぶべきかどうかという判断をしにくいという点がある。
- ・電話相談をやっていたと思うが。
- ・栃木県や小山市だと健康増進課がやっている事業だと思うが、そのアナウンスをもっと積極的に行う必要があると思う。
- ・まずは救急車だと思う。
- ・全国的に色々な取り組みを行ってはいるが。
- ・救急車を利用して病院に搬送されるというのは非常に重症であり、生涯であるかないかではないか。

社会の雰囲気が一因になっている可能性もあり、救急車を有料化するということを考えても良いのではないかと感じている。

帰りはタクシーで帰るのであれば、入院にならなかつたら料金を取る、入院になったら料金は取らない、合理的ではないかと思う。

- ・そういった数字をつまびらかにしてもらい、「こんなに救急車を使っているが良いのだろうか」と折に触れて市民に啓発して行きたいと思う。

○がん相談件数の急増について

- ・相談窓口でがん相談が急増しているが、何か特別な取り組みをしているのだろうか。

- ・がん相談は窓口で受ける他に、社会福祉士が病棟で受けている相談件数も計上している。

件数が増えた理由としては、病院として退院支援を強化しており、より早期に患者と関わるようになり、1人の患者から複数回相談を受けるようになったためと推測する。

- ・がん相談と定義しているが、所謂退院支援に関わるような相談も含まれる。
- ・最近がんに関する相談が出来る窓口がないか相談を市民から受けたのだが、かかっていなくても相談出来るのだろうか。
- ・社会福祉士と相談窓口の担当は国立がん研修センターのがん相談員研修を受けており、標準的な話は出来るようになっている。

当院に入院中・通院中の患者なくても広く相談を受けており、がんの相談窓口として紹介していただいで構わない。

○経過観察患者の紹介状について

- ・1年に1回だけMRIを撮りに来る患者等、普段は開業医の先生に診ていただいでいるが1年に1回だけ当院へ定期検査のために来る患者に対して紹介状を書く必要があるのだろうかと疑問を感じている開業医の先生がたくさんいらっしゃる。

外来にはこのような患者が多くおり、紹介状がないと紹介率が下がってきてしまうことから、1年に1回だけかもしれないが1行だけの簡単な紹介状で構わないので、紹介状を書いていただければ助かる。

- ・それは重要なことであり、普通は1年に1回だけでも紹介状を書くべきであり、本来は我々側がそれに違和感を感じてはいけないのだと思う。

開業医も忙しい診療の中で紹介状を書いており、簡単にチェックだけすれば定期検診の依頼を出来る様なフォーマットを作っていただければありがたいと思う。

1年に1回定期検査をすることは患者にとって必要なことであり、病院が経過観察用の簡単なフォーマットを作ってくれたからこれで紹介してほしいと開業医に医師会から呼びかけることが出来る。

- ・ぜひ考えてほしい。
- ・話は了解したので、フォーマットの作成をぜひ検討してほしい。

○B P 製剤使用前の歯科医受診呼びかけのお願い

- ・ 歯科医師会から医師会の先生、市民病院の先生にお願いしたいのだが、骨粗しょう症になった際B P 製剤を使う前にかかりつけの歯科医師の健診を受けるように患者に呼びかけてほしい。

B P 製剤を使用した患者全員に顎骨壊死が生じるわけではないが、可能性は否定出来ないので、B P 製剤を受けても大丈夫か歯科医師の健診を受けてほしい。

- ・ 使い出したら言えば良いのだろうか？
- ・ 使う前に一言言っていただければと思う。

最後に事務局より、次回の本委員会を令和元年8月21日(水)、午後1時30分から新小山市民病院さくらホールで開催予定であることを案内し閉会した。

第2回 新小山市民病院 地域医療支援病院運営委員会 次第

日時:令和元年8月21日(水)13:30～

場所:新小山市民病院 多目的ホール

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

1) 平成31年4月～令和元年7月の実績報告

(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績

(2) 共同利用の実績

(3) 救急医療の実績

(4) 研修会の実績

(5) 相談窓口の実績

(6) 在宅復帰率について

2) その他

4. 閉会

次回開催予定

・令和元年11月20日(水)13:30～

令和元年度 第2回新小山市民病院地域支援病院運営委員会
会 議 要 旨

日 時 令和元年8月21日(水)午後1時30分～午後2時30分
場 所 新小山市民病院 2階 さくらホール
出席者 委員長：島田 和幸 副委員長：塚田 錦治
委 員：北村 諭・手束 公一・鶴養 則弘・福田 芳彦(代)・室橋 正枝
菅原 康一・坂田 普・折笠 清美

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

1) 平成31年4月～令和元年7月の実績報告

- (1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績
- (2) 救急医療の実績
- (3) 研修会の実績
- (4) 相談窓口の実績について
- (5) 在宅復帰率について
- (6) 質疑応答

○小児救急患者の増加について

- ・小児科の紹介が増えているが、要因について分析しているか。
- ・H29.4月から平日が22時まで、H30.11月からは土曜日も22時までの診療ができるようになった。
また、H31.4月からは、さらに全日(365日)22時まで診療ができるようになった。
- そういったことが大きな要因として考えられる。

○窓口相談について

- ・窓口相談でその他の部分で、何か特殊な事例はあったか。
- ・相続関係の相談。落とし物のことで外部からの連絡。
専門的な知識を要することは、簡易裁判所に連絡をしたり、いろんな専門のところに連携をとって、解決できるように努めている。
- ・医療事故に関わるような相談、例えば医療訴訟に発展しそうな相談はないか。
- ・医療訴訟に関係するような相談は、医療安全で扱っているが、障害年金をめぐることで開業医の先生から相談があり、当院に通院している患者さんではないが、開業医の先生と患者さんに当院へ来ていただき、医療安全を交えて問題を解決したことはある。
- ・最近、訴訟に関わるようなイベントの発生はなかったか。
- ・一定数はいつもある。

大きな事故で医療事故調査に係るようなものも、現在までに2件ほどある。

- ・あえて言ったのは、旧小山市市民病院時代に極めて重大な医療事故が発生したことがあり、病院としては、非常にうまく事が運んだ。

速やかに事が進行して、一番良かった要因は、全体でそれをしっかりとオープンにして、全員が把握して、全員が危機感を共有して、進んだことがすごく良かった。

相談事は、窓口で処理しきれないことがたくさんあり、場合によっては、運営委員会にもオープンに上がってくるような体質、そういったことが重要だと思っている。

○とちぎ子ども救急電話相談(#8000)について

- ・小児の救急車利用が増えているが、119番する前に「とちぎ子ども救急電話相談 #8000」があるが、その利用率はどうなっているか。

市民の認知度がまだまだだと思うが、啓蒙活動は、救急車の負担を軽減するためにも必要だと思う。

- ・利用率については、当院では計り知れない。

行政の方で、そういった働きかけは、いかがか。

- ・行政の方では、毎年1回3月に配布している「健康のたより」には、救急医療のかかり方というパンフレットがあり、#8000の案内はしている。

また、小山の医療を考える市民の会議の方々定期的に集まり、その中では、安易に救急車を呼ばないでということと#8000等の案内について、地域医療のシンポジウムの中でも啓蒙を図っている。

行政でできそうなことは、その情報を健康推進委員や地域の健康についての役割がある方にも啓蒙ができればと思う。

- ・#8000は、1歳半健診や3歳健診で啓蒙しているか。

- ・特別毎回配布していない。

1歳半健診の時には、こどもの事故防止の冊子と一緒に困ったときにはということで載っているものがあるが、それだけが目につくようなPRではない。

- ・乳幼児健診(1歳半健診、3歳健診も含む)の際に、それを1枚つけて、その時にPRするのは、良いのではないか。

- ・紙1枚入れていくような形で、目に見える形で検討する。

2) その他

(1) 平成30年度決算について

- ・経理課長より平成30年度の決算について報告し、収支概要を委員に説明した。

《質疑応答》

- ・営業収益と営業費用を引いて、9千万というのは、固定費の中でもこれは絶対削れないとか、これは減らしちゃいけないというのはあると思うが、9千万くらいのことだと、ちょっとしたことで削れるものがあるのでは。

マンネリでずっと続いてしまっているものを経費の細やかな削減という意味で、見直す機会ではないか。

資料にはなかったが、レセプト関係で、返戻で不解約的な返戻の数を把握しているか。

独法化する前の旧小山市民病院の時に、返戻がそのまま何も処理されずに数千単位で放置してあったことがあった。

昔の運営委員会で問題になった。

そういったところは、病院なので、細かくチェックしてもらいたい。

- ・以前、医事課長から説明したことがあるが、返戻については再度再請求している。
 - ・正当な医療を行って、正当な診療報酬の請求をしているので、むやみに引き下がることなく正々堂々としっかり請求をしたほうがよい。
 - ・診療報酬の請求に関して、査定率や実際の金額は、たいした金額ではない。しっかりとその辺は医事課でやってくれている。
- 当初から「1円たりとも多くとるな」「1円たりとも取りはぐれないで対応しろ」というモットーで行っている。

(2) 診療情報提供書について

- ・前回の会議の中で、委員の方から出ました通り、年に1度の定期検査の際、地域の先生方の方から、ひな形があれば診療情報提供書が書きやすいという話があった。

院内で検討した結果、このような形で医師会の先生方に提案したい。

- ・あると非常にありがたいと思うので、定期検査や経過観察の為に使わせてもらいたい。
- ・医師会の事務局へ持参する。

(3) 医療連携室よりお知らせについて

- ・R1.8.1から医療機関からの紹介予約について、簡素化するために保険情報のFAXでのやり取りをなくし、電話だけで予約をできるようにした。
- ・地域サービス推進室長よりPRチラシ「おもいの森」について、参考に委員へ配布した。

最後に事務局より、次回の本委員会を令和元年11月20日(水)午後1時30分から開催することを案内し、閉会した。

第3回 新小山市民病院 地域医療支援病院運営委員会 次第

日時:令和元年11月20日(水)13:30～

場所:新小山市民病院 多目的ホール

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

1) 令和元年8月～10月の実績報告

(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績

(2) 共同利用の実績

(3) 救急医療の実績

(4) 研修会の実績

(5) 相談窓口の実績

(6) 在宅復帰率について

2) その他

4. 閉会

次回開催予定

・令和2年2月19日(水)13:30～

平成31年度 第3回新小山市市民病院地域支援病院運営委員会
会 議 要 旨

日 時 令和元年11月20日(水) 午後1時30分～午後2時10分
場 所 新小山市市民病院 2階 さくらホール
出席者 委員長 島田 和幸 副委員長 塚田 錦治
委 員 北村 諭・手束 公一・鶴養 則弘・大橋 俊子・室橋 正枝
菅原 康一・折笠 清美・坂田 普

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

1) 令和元年8月～10月の実績報告

- (1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績
- (2) 共同利用の実績
- (3) 救急医療の実績
- (4) 研修会の実績
- (5) 相談窓口の実績について
- (6) 在宅復帰率について
- (7) 質疑応答

○救急患者受入れについて

- ・救急車収容不能理由内訳で“専門外”というものがあるが、例えばどのような診療科の医師にどのような患者が来たのだろうか。
- ・内科系、外科系という当直の形で各診療科の医師が順番で当直にあたっているのだが、例えば眼科系の症例や耳鼻科系の症例が来てしまい、診ることが出来ないというケースが多い。
- ・あとは婦人科の患者についても対応が難しい状況である。
- ・患者支援センターに紹介いただいた患者についても、専門外ということでお断りすることがある。
- ・栃木県全体の脳卒中患者の動きや、県南地域に特化した医療の動態を見る機会があったのだが、新小山市市民病院が担っている役割と果たしている仕事量について、とても素晴らしいものがあると感じた。
当直体制の話聞いた時、医師たちの疲労度が増していないかとても心配になってしまう。
- ・あれだけ救急を受入れているとなると、このようなところが非常に心配であり、ぜひ注意していただければと思う。
- ・働き方改革において、この5年間の猶予期間で勤務時間の対策を講じるようになっており、きちんと整備していきたいと考えている。
- ・脳卒中の救急については、t-P A治療や塞栓回収術などがあり、発症からよ

り早く治療すると何の後遺症もなく退院することが出来る。
救急隊と、そして市民の方に早く救急車を呼ぶように啓発が必要だとつくづく
思っている。

- ・ t-P A治療専門の医師が栃木県に10人いて、そのうち5人がこの県南地区
にいる。
- ・ だからこそ多くの患者が搬送されるわけだが、貴重な人材であり上手く仕事を
していただきたいと思っている。
- ・ 同じ50万人規模の宇都宮市と比較しても県南地区の方が患者数が多く、2つ
の大学病院があるから当たり前かもしれないが、新小山市民病院は非常に恵ま
れた環境にあり、島田委員長がおっしゃった働き方改革への整備は5年間のう
ちに実施すれば良いということではなく、今のうちから皆さんで知恵を絞って
十二分に策を考えていかなければならないと思う。

2) その他

過日に開催した第8回新小山市民病院ふれあい祭りと、平成30年度新小山市民
病院業務実績に対する評価委員会の評価について事務局より報告した。

- ・ 今年度初めて病院のふれあい祭りと同日に市の健康フェスティバルを開催した
が、かなりの方が道路を渡ってそれぞれの祭りに参加していたようで同日に開
催することで相乗効果が出たと考えられる。

前回の本委員会で小児救急患者が増加にあることから、乳幼児健診会場で小児
救急医療電話相談事業（#8000）の啓発をした方が良いのではないかという提
案をいただき、栃木県から新しいパンフレットが配布されたこともあり、1
0月から全ての乳幼児健診会場で#8000について啓発している。

これが具体的な形になっていくのはこれからだと思うが、今後も啓発を続けて
いきたい。

脳卒中についての啓発は、今後テレビおやまの放送と併せてPRしていく予定
である。

- ・ おーラジでは医師会がPRする枠があると思うが、当院の脳卒中センターの医
師が出演し“ACT FAST”等について話をする機会はあるだろうか。
- ・ 先日三師会の会長が集まり、来年度の番組の大まかなタイトルについて協議し
たところであるが、医師会には年10回ほど枠があり、今からでも十分準備は
間に合うのでその方向で動いていきたいと思う。

病院業務実績に対する評価委員会の評価について、評価委員会からの評価は非
常に高く、全国の地方独立行政法人の病院と比較しても相当上位になるような
成果を出していると思う。

本当は更に良い評価でもいいのだが、周産期が稼働しないためにB評価に甘ん
じているところもあり、今後の整備に期待したい。

医師、看護師、その他スタッフを含めどのように人を揃えるのかが今後も病院
運営のキモになってくると思う。

来年度に向けて臨床研修指定病院になった時、ただ指定を受けただけではなく、
二世先生も育ってきているであろうことから、医師会員にPRするようなもの

があればとても良いと思う。

また看護師についても、東京に流出している看護師を引き止めて頑張っここで働きませんかという工夫をする等、このような工夫の積み重ねが人材確保に繋がっていくと思うので、よろしく願いしたい。

- ・今回10月20日に病院祭りと同時開催で小山市健康フェスティバルを実施したが、病院祭りを周知するという点からも来年度以降も同時開催とした方が良いのではないだろうか。
- ・今年初めて「健康キッズ大学」を祭りの中で実施したが、非常に評判が良かった。

最後に事務局より、次回の本委員会を令和2年2月19日（水）、午後1時30分から新小山市民病院さくらホールで開催予定であることを案内し閉会した。

第4回 新小山市民病院 地域医療支援病院運営委員会 次第

日時:令和2年2月19日(水)13:30~

場所:新小山市民病院 多目的ホール

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

1) 令和元年11月~令和2年1月の実績報告

(1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績

(2) 共同利用の実績

(3) 救急医療の実績

(4) 研修会の実績

(5) 相談窓口の実績

(6) 在宅復帰率について

2) その他

4. 閉会

来年度 運営委員会開催予定

- ・ 2020年5月20日(水)13:30~
- ・ 2020年8月19日(水)13:30~
- ・ 2020年11月18日(水)13:30~
- ・ 2021年2月17日(水)13:30~

令和元年度 第4回新小山市市民病院地域支援病院運営委員会
会議要旨

日時 令和2年2月19日(水) 午後1時30分～午後2時30分
場所 新小山市市民病院 2階 さくらホール
出席者 委員長：島田 和幸 副委員長：塚田 錦治
委員：北村 諭・手束 公一・鶴養 則弘・大橋 俊子・室橋 正枝
菅原 康一・宮脇 貴裕・折笠 清美・坂田 普

1. 開 会

野本患者支援センター長の司会により、本委員会が開会。

2. 挨拶

島田病院長より挨拶。

3. 議 事

1) 令和元年11月～令和2年1月の実績報告

- (1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績
- (2) 共同利用の実績
- (3) 救急医療の実績
- (4) 研修会の実績
- (5) 相談窓口の実績について
- (6) 在宅復帰率について
- (7) 質疑応答

○救急収容不能件数(小山消防署)について

- ・救急の収容不能件数内訳について、その他の件数も多いが、内訳は把握しているのか。
- ・内訳はすべて把握している。1月は薬剤の過剰摂取など対応できないことがあった。
院内の救急委員会で救急と消防と情報共有して、受け入れの仕方を検討している。
- ・内訳としてはその他が良いが、収容不能理由は同じ状況でも一つひとつケースが違うので、できるだけ詳らかにして丁寧にやれると良いと思う。
- ・収容不能はなかなかゼロにはならない。精神疾患や飲酒は対応する医師に負担が掛かる。
- ・その他に含まれる理由は、市民病院の中で消化しようと思っても無理だと考える。
せっかくこの場に行政や三師会や消防も出席しているので、市民への啓発を丁寧にして、適切な病院のかかり方をうまく伝えていかなければいけない。
- ・12月に16歳の患者が救急外来を受診した。
結城病院に一度救急車で運ばれて、なんでもないとされたが当院に来た。
その患者の母親が恐らく精神疾患であり、昼12時頃から夜9時過ぎまで救急外来の先生や当直の先生がそこに取られてしまった。

スーパー救急の精神科にかけても断られ、市役所もやっていない時間、県南健康福祉センターも連絡が繋がらず、最終的に警察の本庁の方に来て頂いた。

暴れてナースも引っかかれたりした。

このような状況では救外は全部ストップしてしまう。

現場はどうしたらよいのか。

12月は別の方で同じようなケースがあった。もう

1件は外来に居座られて夜8時過ぎまでいた。

- ・営業妨害で罪状が適用できるのだろうか。それなら警察も動けるのではないか。
- ・警察は来たが手の出しようがない。
- ・保護対象まで至らないということなのだろう。
私傷疑いの部分が明確にないと警察は動かない。
- ・看護師さんが引っかかかれているわけでしょ。
- ・看護師がそれを傷害として訴えれば警察は連れて行くということのうようだ。
看護師の職業柄、引っかかれたくらいでは傷害で訴えることはしないのでなかなか難しい。
- ・12月に2件もあったということはまだ来るかもしれない。
- ・12月の件に関しては、連絡網に不都合があり、新しい連絡網を周知した。
県では身体合併ある人と精神疾患ある人のルール作りをして、試行で始めているところだ。
今回はどちらかというと疾患性のものというよりは人格障害や適応障害に近いケースだと思うので、私傷疑いではなく営業妨害という形で管理者から警察に訴えるほうがリーズナブルだと思う。
- ・救急の会議に警察生活安全課の課長さんとかをお招きすることはできないのか。
- ・救急の会議には警察は入っていない。
- ・全国的にはMC（メディカルコントロール）に警察機関が入っているところも中にはある。
- ・一病院の会議に警察が入るのは難しいので、組織のところに入るともう少し連携が取れるかもしれない。
- ・県主催の救急協議会などは警察も来ているので、市民病院の運営委員会の要望として出してみる。

○ベッドの稼働率について

- ・現状、ベッド満床についてはどうか。稼働率はどうなっているか。
- ・利用率でほぼ95%、稼働率で105%となっている。
月に何回か本当にベッドがなくなることがある。
救命救急ベッドを除いて、普通の患者さんをお断りすることが短時間(2~3時間)発生している。

2) その他

(1) 乳腺外来・心臓血管外科について

- ・乳房にしこりのある患者さんを新小山市民病院 乳腺外来に紹介した。

精検をして2週間程で結果がすみやかに返ってきた。

是非、乳腺外来もわかりやすいように案内して欲しい。

- ・足の静脈瘤の患者さんが意外と多く4~5人 新小山市市民病院に紹介している。手術をすると治るということを知らない人が多いので、わかりやすく案内してもらえると患者も喜ぶと思う。

(2) 患者支援センターからのお知らせ 患者支援センターアンケート結果

- ・患者支援センターで紹介状持参の患者に対し、1月27(月)~31日(金)にアンケートを行った。

配布は201枚、回収は145件、回収率は72.1%となっている。

- ・患者支援センター内での待ち時間は非常に早く概ね10分以内に終わっている。
- ・外来受付から診察室入室までの待ち時間は平均55分程かかっている。それぞれの科の待ち時間は円グラフで示した通りである。早い科で20~30分、遅い科で2時間程となっている。
- ・診察終了から会計までの待ち時間は概ね30分以内となっている。
- ・患者支援センターの対応については、ほとんどが良かったという回答をいただいた。
- ・当院全体についての感想だが、「早く診察できて良かった」「案内対応が良かった」「親切だった」「医師がはっきりと結果を説明してくれて安心した」「看護師さんが優しくかった」などがあつた。一方で「待ち時間が長い」「会計が遅い」などがあつた。こういった点を見直しながら病院でも改善していきたいと思っている。

(3) 新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安 ポスターについて

- ・小山市で、国が出した相談受診の目安を市民の方に少しでも早く知っていただいた方が良いと考え作成した。

状況が変わる可能性もあるが、この用紙については、市の庁舎の入り口、サクラミチ、各出張所、商工会や工業団地の組合、JAなどに掲示をお願いする。

- ・国が17日付で不安解消のため、風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く方、強いだるさや息苦しさがある方、受診するためには保健所に電話するよう案内をしているので、朝8:30になると電話での問い合わせが多く来ていて、本来の業務ができない状況になっている。

栃木県内で感染者が出た場合、更に増加すると予想される。

現状、病院に行くためには保健所となってしまっている。

小山市は「かかりつけ医に相談した上で」という文言を入れた。

かかりつけ医に相談の上で、かかりつけ医が保健所に連絡するようになっている。

- ・基本的に地域医療を守るという意味では、重症の方々にしっかりと治療を受けてもらえるよう、病院がパンクしないよう、地域全体の医療でやっていきたい。だが、何箇所かの開業医の先生から保健所にお怒りの電話がかかってくる。患者さんからはかかりつけ医に行ったが診てもらえないと電話が来ている。もう少ししたら一般の病院でもPCR検査がある程度できるようになるかもしれない。

ない。

行政だけではなく他でも検査ができるようになれば、少しバランスが取れてくると思う。

明日明後日という訳にはいかないので、もう少しこの体制が続くと考えられる。

・発熱症状には重篤な心筋症や髄膜炎など、急性変化するものも入っていると思うので、一律に待っていてくださいというものでもない。

・何かあれば新小山市民病院にかかろうと直接受診する患者も多いと思うので、今週末あたりは少しパニックがあるかもしれない。

あまりに多い場合は医療関係への通知など保健所から出すので言っただければと思う。

・医療機関とのやり取りは蜜に取らせてもらう。

普通の固定電話が繋がらない場合は、感染症担当の携帯であれば繋がるので、確実に連絡が取れる。

その番号は医療機関にしか教えていない番号になっている。

最後に事務局より、来年度の予定を案内し閉会した。

2020年5月20日（水）13：30

2020年8月19日（水）13：30

2020年11月18日（水）13：30

2021年2月17日（水）13：30

(様式例第19) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口・相談室・その他（診察室）
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	保健師・社会福祉士
患者相談件数	1, 197件
患者相談の概要	
<p>相談内容は6つのカテゴリに分類</p> <ul style="list-style-type: none">・ 逆紹介以外の医療相談 (275件) …外来診療に関する事、入院や転院に関する事、他機関との相談や依頼、その他・ 医療費 (156件) …健康保険に関する事、医療費助成制度に関する事、外来・入院の医療費について、交通事故に関する事、労災・支払い方法、その他・ 介護保険 (221件) …介護保険に関する事、高齢者福祉に関する事、介護者・介護手当、疾患についての相談、入院・外来患者の支援（特に認知症関連）、ケアマネージャー（CM）や地域包括支援センター（包括）との相談や依頼、その他・ 福祉相談 (104件) …生活保護、身障者、精神障害、特定疾患、行政と連携、その他・ 逆紹介を含めた通院相談 (334件) …地域完結型医療に関する説明、かかりつけ医選定、通院・入院に関するもの、病院・医院の情報、医師からの依頼、その他・ がん相談 (142件)・ その他 (107件) <p>対策について</p> <p>窓口として適切な部署に振り分けると共にできるだけワンストップで解決できるよう配慮しています。</p> <p>※別紙参照</p>	

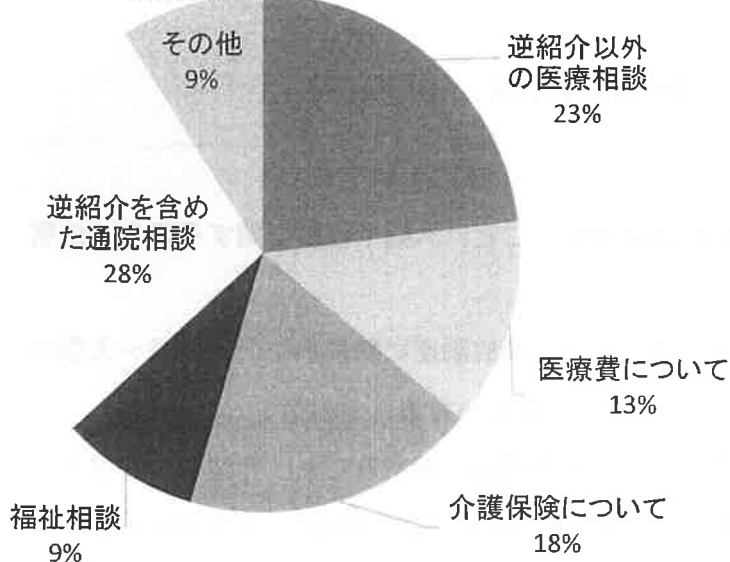
(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

窓口相談・サポートにかかる統計資料

窓口相談状況（全集計）2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
逆紹介以外の医療相談	37	24	15	16	17	18	28	20	24	26	32	18	275
医療費について	15	16	23	16	18	8	13	11	9	5	9	13	156
介護保険について	34	12	12	23	10	18	11	12	22	33	16	18	221
福祉相談	6	16	11	6	13	7	10	9	6	6	8	6	104
逆紹介を含めた通院相談	26	26	28	39	35	31	29	18	34	21	18	29	334
その他	5	11	4	13	9	16	13	17	6	5	5	3	107
がん相談（再掲）	7	8	11	15	4	8	13	11	22	16	17	10	142
計	123	105	93	113	102	98	104	87	101	96	88	87	1197

窓口相談にかかる統計資料(2019.4月～
2020.3月)



・通院相談は、主に逆紹介先、精神連携、医科歯科連携の紹介先についての相談。

・医療相談は、訪問看護に関して、認知症や精神科疾患疑い患者の受診がん相談、薬の管理について、運転免許や難病に関する診断書、その他病状に関する相談などが多かった

・障害者、難病患者など不定期に数回面談を希望した患者が複数いた

・クリニックから障害年金診断書の件で数回に渡り協力した。

・訪問診療につないだ件数 35件

・ケアマネージャー、訪問看護師と主治医との連携も行った。

がん相談件数（相談窓口・退院支援）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん相談件数	45	59	38	45	121	141	187	104	251	144	128	109	1372

4～7月のはがん相談員（相談窓口、MSW）のみの相談件数。

8月より退院調整看護師の相談件数も計上

外部機関との連携状況（窓口のみ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療機関	17	25	31	18	10	13	11	17	29	19	19	9	218
訪問看護ステーション	22	6	7	5	1	1	4	5	12	8	6	4	81
ケアマネージャー	14	13	15	18	13	21	14	16	27	36		19	206
ケアマネ以外の介護施設	7	0	1	2	1	1	0	1	0	0	25	1	39
行政（生活保護を含む）	13	21	15	6	20	13	17	10	18	2	0	4	139
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10
計	73	65	69	49	45	49	46	49	86	65	60	37	693

・医療機関は、訪問診療医療機関、精神科への連絡、クリニック医師、病院相談員からの相談が多かった。

・行政は家庭相談員、生活保護担当者、保健所（精神、難病、肝疾患）、介護保険に関して連携した。

・救急搬送された患者の連絡可能な家族を探す際にも、ケアマネージャー、行政に協力いただいた。

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 平成27年5月 (主たる機能：一般病院2 機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.1) 認定期間：平成27年10月2日～平成32年10月1日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 新小山市民病院診療科案内…年1回発行（連携医療機関に配布） 新小山市民病院ニュースレター（医療機関向け広報）…年4回発行（連携医療機関に配布） 新小山市民病院だより（一般向け広報）…年4回発行（小山市広報に同封し小山市民に配布） わかぎ（院内広報紙）…年4回発行（来院者向けに院内に設置し配布） 以上の広報はホームページで閲覧可 食と栄養だより（栄養管理部門からの広報）…年6回（奇数月）発行（来院者向けに院内に設置し配布） 他当院公式ホームページ及び当院公式Facebookページにより情報発信	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有・無
・退院調整部門の概要 入退院支援室・医療相談室が連携し、退院調整看護師、社会福祉士が協働している。 ・入院直後全患者にスクリーニングを行い、退院支援の必要な患者を抽出し、退院支援計画書を作成 ・計画書に基づき、担当ケアマネージャーと連携、情報を共有し、退院前に病棟にてカンファレンスを実施 ・自宅退院の場合には、介護保険の調整、訪問診療、訪問看護の調整 ・転院、施設入所の調整	

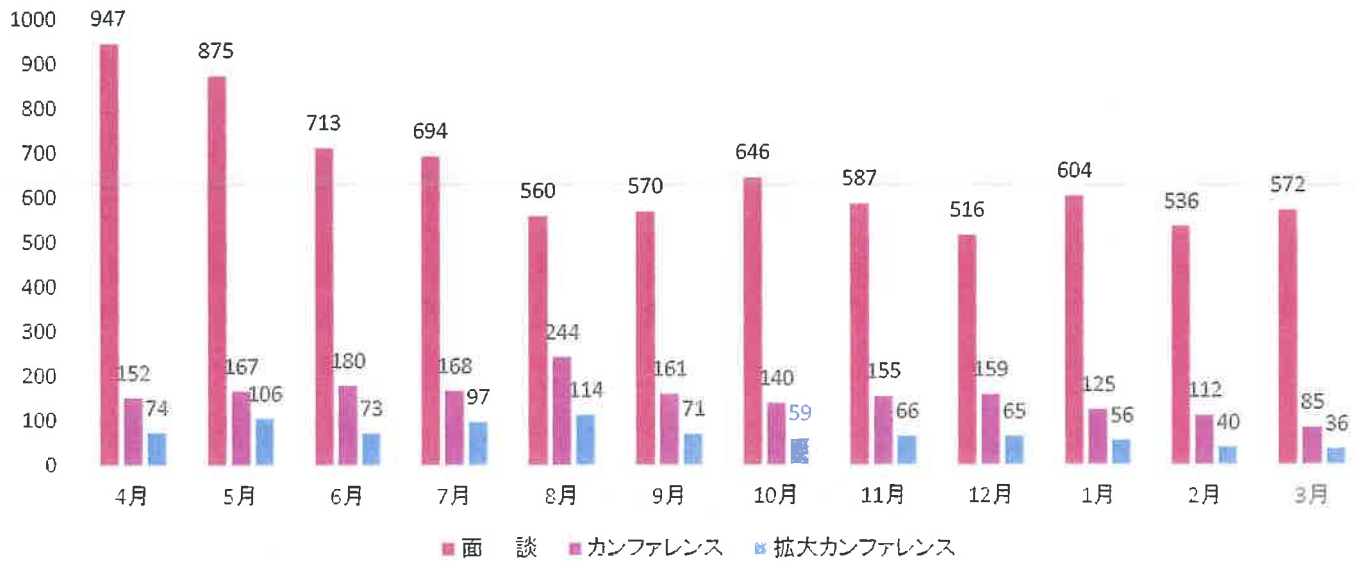
4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 脳卒中地域連携パス 大腿骨頸部骨折地域連携パス ・ 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 連携病院との定期的な情報交換を行っている。	

令和元年度 入退院支援状況

入退院支援室 活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面談	947	875	713	694	560	570	646	587	516	604	536	572	7820
カンファレンス	152	167	180	168	244	161	140	155	159	125	112	85	1848
拡大カンファレンス	74	106	73	97	114	71	59	66	65	56	40	36	857



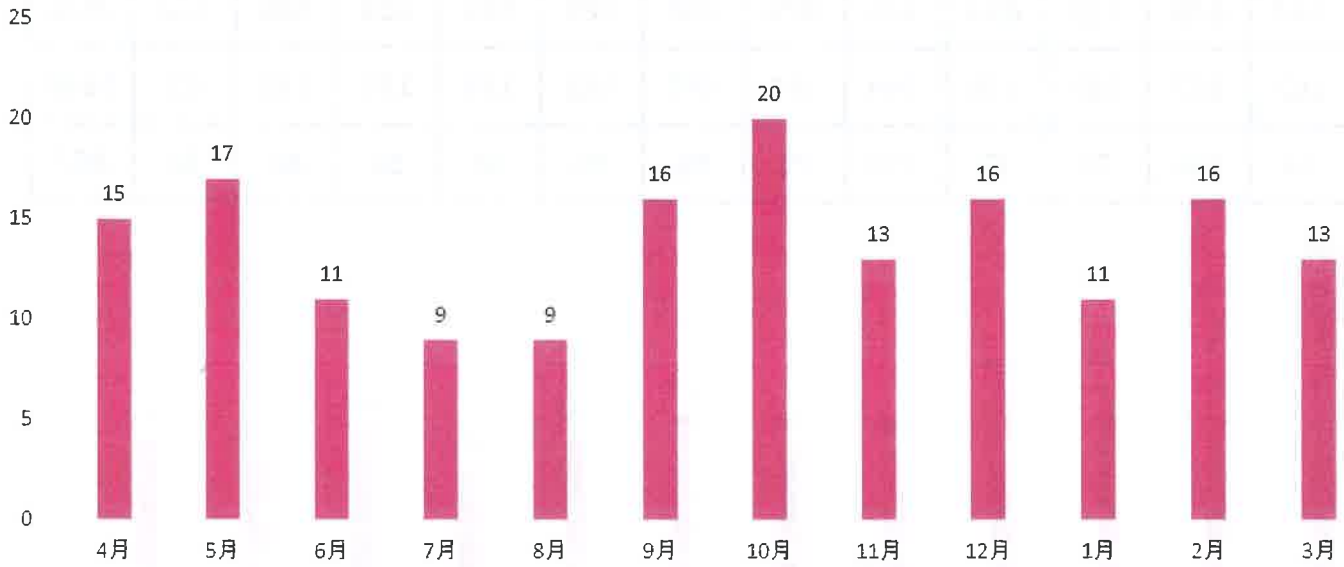
入退院支援加算1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院支援加算1	181	182	153	156	178	175	192	186	220	170	190	180	2,163



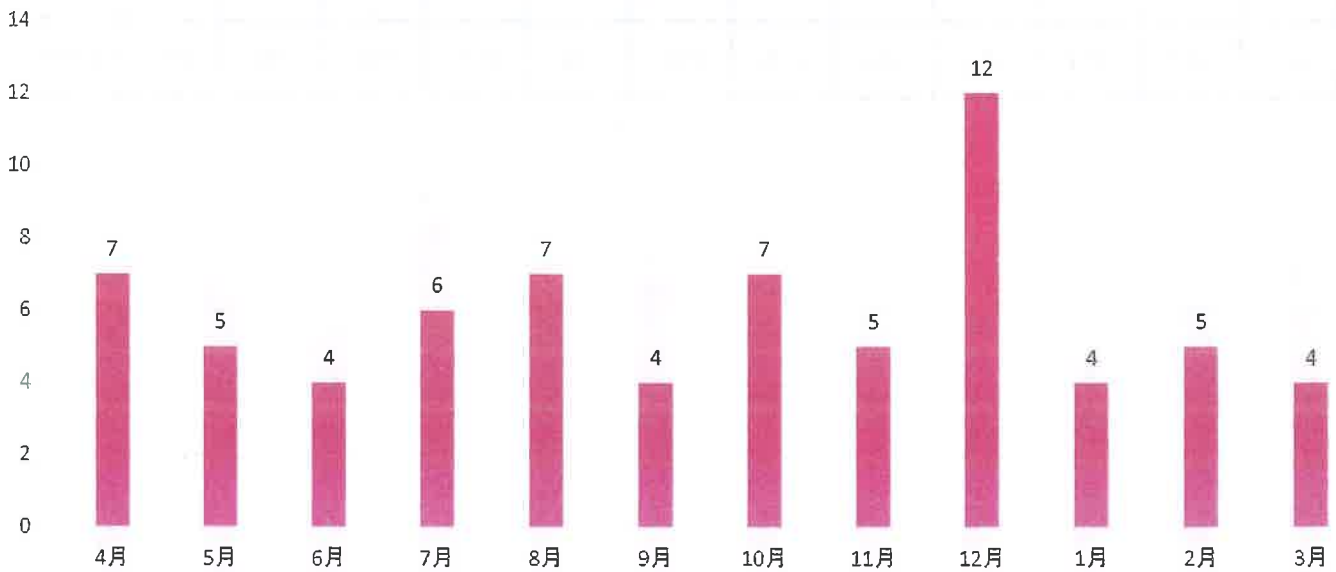
入院時支援加算

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院時支援加算	15	17	11	9	9	16	20	13	16	11	16	13	166



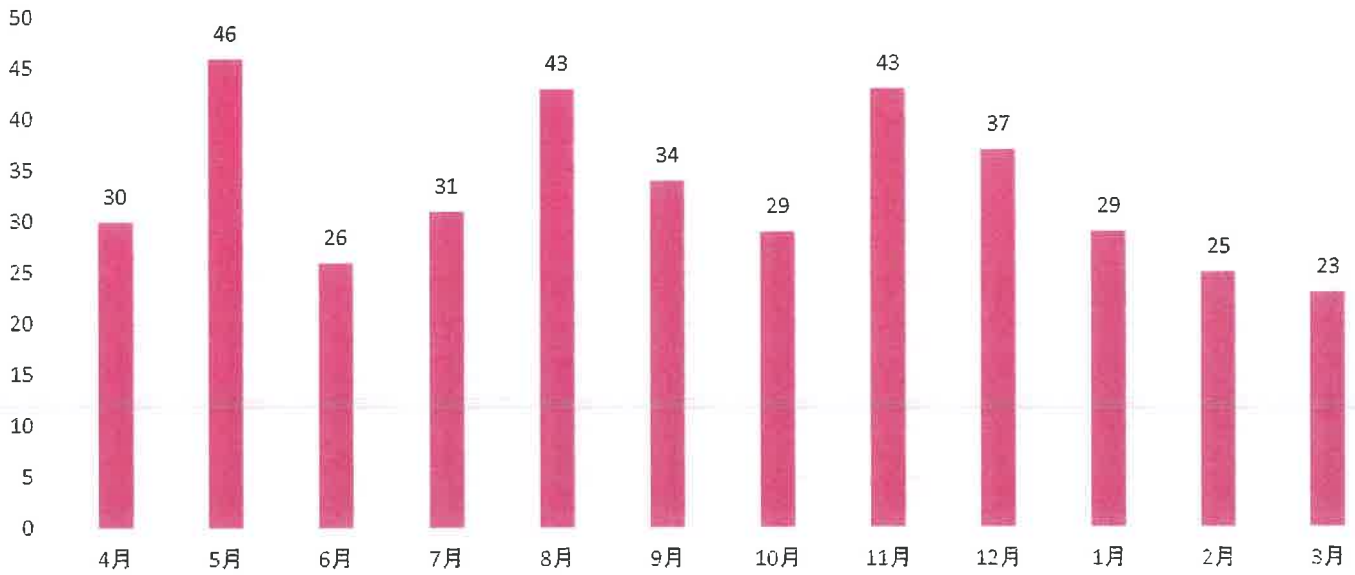
退院時共同指導料2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退院時共同指導料2	7	5	4	6	7	4	7	5	12	4	5	4	70



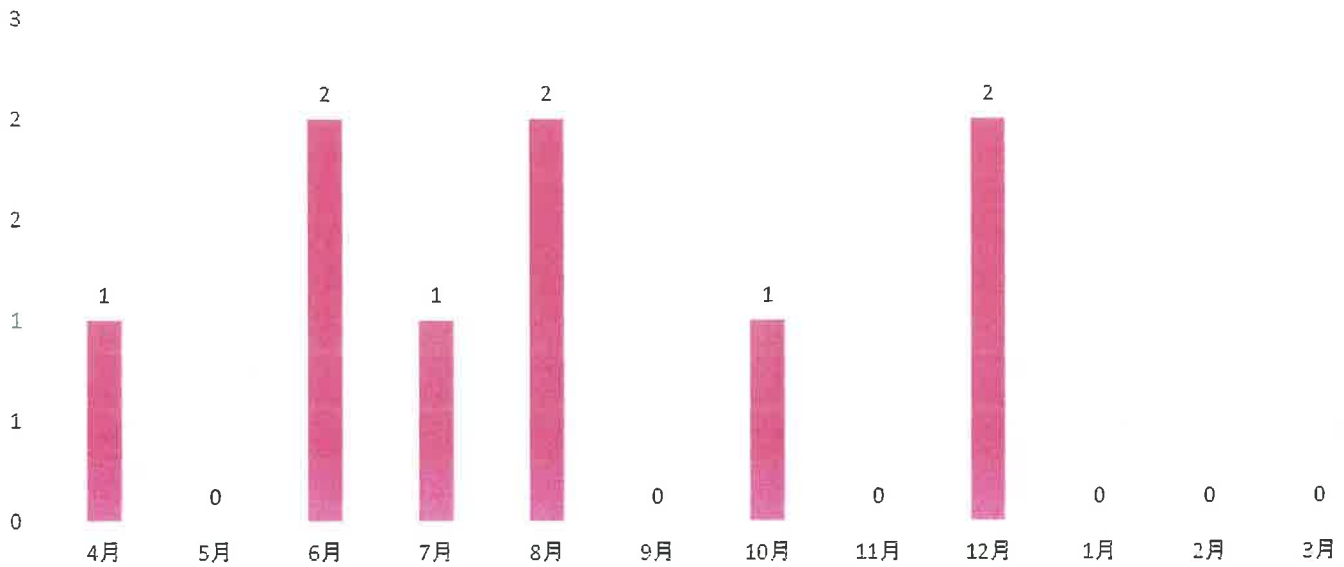
介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護支援連携指導料	30	46	26	31	43	34	29	43	37	29	25	23	396



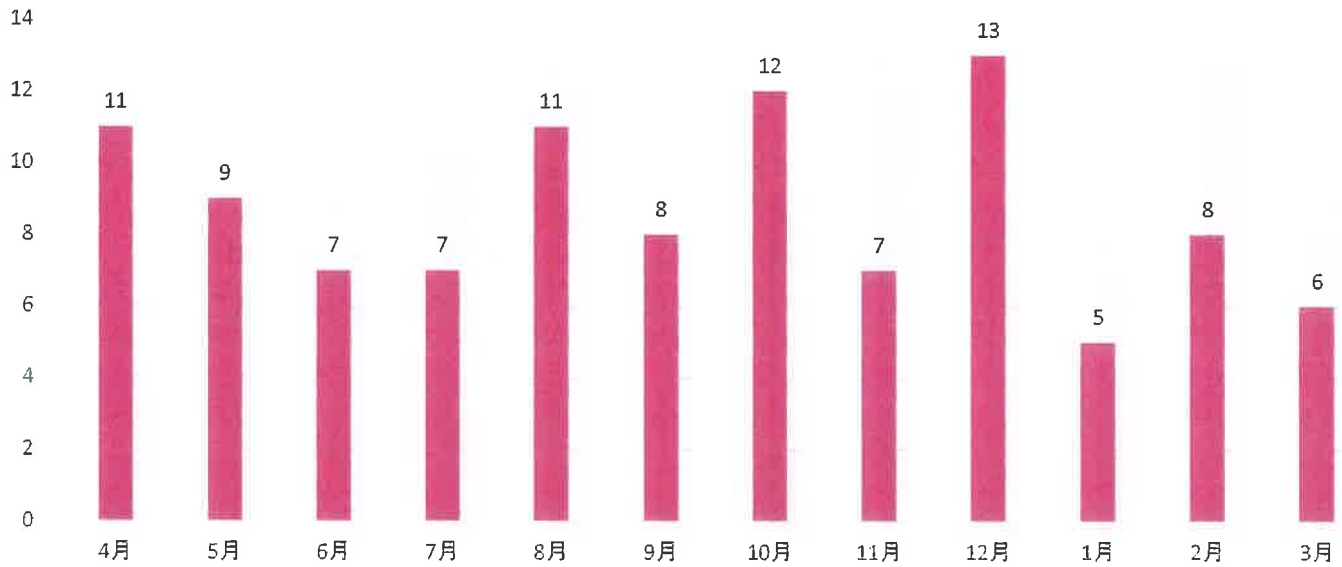
多機関協働指導加算

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
多機関協働指導加算	1	0	2	1	2	0	1	0	2	0	0	0	9



在宅患者緊急入院診療加算 (2,500点)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅患者緊急入院診療加算 (2,500点)	11	9	7	7	11	8	12	7	13	5	8	6	104



在宅患者緊急入院診療加算 (2,000点)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅患者緊急入院診療加算 (2,000点)	5	2	3	2	2	5	1	2	0	1	2	1	26

